

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	671300259
法人名	社会福祉法人 みゆき福祉会
事業所名	グループホーム みずほ
訪問調査日	平成 21 年 2 月 20 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 30 日
評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月30日

【評価実施概要】

事業所番号	671300259		
法人名	社会福祉法人 みゆき福祉会		
事業所名	グループホーム みずほ		
所在地 (電話番号)	山形県上山市牧野字妻神1615 (電 話) 023 - 677 - 2122		
評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市檀野前13-2		
訪問調査日	平成21年2月20日	評価確定日	平成21年3月30日

【情報提供票より】(平成20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 14 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 14人, 非常勤 1人, 常勤換算 14.7 人	

(2) 建物概要

建物形態	○併設 / 単独		新築 / 改築
建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円	その他の経費(月額) 下水道代34円(日額) 他実費	
敷 金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	○有 / 無
食材料費	朝食	220 円	昼食 230 円
	夕食	550 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名
要介護3	4 名	要介護4	4 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.95 歳	最低 68 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みゆき会病院 後藤歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同一運営法人の介護老人福祉施設や、サービスセンター等と隣接され、周囲は田園に囲まれ、ぶどう、さくらんぼ、ラ・フランス等の果樹、特に上山特産「干柿」では有名な地に立地されています。「信頼・助け合い・地域と共に」の法人理念を礎に地域密着型サービスとして「外に出る機会を作る」ことを常に念頭に置き、日常を通し希望に合わせた個別支援を大切にし、「小刻みの幸せ」を提供している。さらに、法人の「みずほだより」やホーム独自の便り「ほのぼの」を市内や地域に回覧をし、地域の一員として地域に溶け込み、交流に力を入れている「ほのぼの」としたホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題について、全職員で話し合い、検討をし、新たなホーム理念を掲げ、さらに食事は利用者と同じテーブルを囲みながら摂る等積極的に見直し改善に取り組まれている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員で自己評価に取り組み、項目ごとに話し合いを持ち、見直しをすることにより「襟を正す」を心がけ、評価に対する理解とサービスの質の向上に繋がっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 法人内の地域交流の場である「陽だまりの広場」の月2回開催される「喫茶陽だまり」を会場に2ヶ月に1回開催されている。利用者、家族代表の他、地域住民代表、市職員のメンバーで和気あいあいと意見が出され、出された意見等は職員で共有しサービスの向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 法人内の特老と一体の家族会に入会をし、年1回視察研修を行なっている。家族参加の行事等を計画しながら、想いや意見等を気軽に話せる機会作りに配慮している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームとして地域と共に自然と交わり合う雰囲気大切に、地区内等の神社への参拝や小中学校の運動会、相撲大会、音楽会等には案内を頂き参加をしている。家族の方のボランティアによる健康体操には、地域人たちの参加の呼びかけや笹巻き、桜餅等のお菓子作りを地域の方と一緒にするなど積極的に地域の人々との交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして地域との関わりを重視するために再度、全職員で話し合い、検討し事業所独自の理念を作られている。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	前回の外部評価の課題に沿って、全職員で開設時の理念を再度検討し、定期会議やカンファレンス等に関わりの振り返りを話し合い「外とのふれあい」を心がけ、理念を共有し意識を高めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームとして地域と共に自然と交じり合う雰囲気を大切にし、地区内等の神社への参拝や小中学校の運動会、相撲大会、音楽会等には案内を頂き参加をしている。家族の方のボランティアによる健康体操には、地域人たちの参加の呼びかけや笹巻き、桜餅等のお菓子作りを地域の方と一緒にするなど積極的に地域の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組み、項目ごとに話し合いを持ち、見直しをすることにより「襟を正す」を心がけ、評価に対する理解とサービスの質の向上に繋げている。		
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	法人内の地域交流の場である「陽だまりの広場」の月2回開催される「喫茶陽だまり」を会場に2ヶ月に1回開催されている。利用者、家族代表の他、地域住民代表、市職員のメンバーで和気あいあいと意見が出され、出された意見等は職員で共有しサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的にサービス担当者会議があり、実地指導の他、各種手続きの相談等やその都度の情報交換を行い連携を図っている。「みずほだより」発行時は市の広報誌と一緒に上山全地区に配布依頼をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	写真と共に日常生活の様子や近況報告、月の行事等を掲載する「お便り」を月1回発行し、金銭出納張は面会時に確認印をもらっている。家族との関係作りを大切にし、その都度連絡を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人内の特老と一体の家族会に入会をし、年1回視察研修を行なっている。家族参加の行事等を計画しながら、想いや意見等を気軽に話せる機会作りに配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動について利用者の反応は穏やかであるが引継ぎを充分に行い、これまでと同じような馴染みの関わりが出来るよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県・山形市グループホーム連絡協議会の各種会議や交換研修、訪問研修に段階別に参加をしている。また、法人内の月別の研修会や交換研修を行い、復命書は全体会やカンファレンス時に報告、発表をし、共有しながら互いのスキルアップに努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県・山形市グループホーム連絡協議会の会議、研修の他、法人内の研修会や交換研修に参加をしたり、認知症介護実習の指定施設となっており、毎年受け入れているスタッフとの意見交換等を行い、情報交換や交流を図っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○ 馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	これまでの生活歴より得意分野を把握し、料理等と一緒にやる場面作りに配慮し、一緒に過ごし、一緒に支えあう関係作りに留意している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向を日常の暮らしの中から声がけや表情、行動より把握し、アセスメントにはセンター方式を取り入れている。職員の気づきを大切に「良い所探し」に視点を向け、見守りながら生活支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人の希望を第一に考え、身体面、精神面、意欲面の継続をテーマに、担当職員を中心に職員全員、家族、医療連携体制の看護師、主治医の意見を取り入れ、チームで介護計画を作成している。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日、法人内看護師による健康チェックがあり、定期的には3ヶ月に一度見直しをしている。変化に応じて、新たに介護計画をチーム体制で作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	入居前からのかかりつけ医に職員が付き添い、継続受診できるように支援している。希望者には法人協力病院の定期的な往診があり、受診結果は家族に報告し、職員も共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できる だけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	事業所の方針を文書化しており、入居時には家族に説明をし理解を得ている。変化に応じて話し合いを重ね、隣接する法人内の看護師の毎日の訪問、また夜間も待機しており、協力病院の確保など、医療連携体制がとれており、本人にとって最も適した支援につなげている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	日々の声がけなど、利用者の自尊心を損ねないように配慮している。職員は「個人情報保護法」を理解し、利用者の個人記録や保管場所、家族等との面談などにも配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりの希望や思いを、工夫しながら把握し、共有している。午前中は体を動かし、午後はゆっくり過ごすなど一日の生活にメリハリをつけ、また事業所のペースにならないように支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「もくれん」「かえで」2ユニットが1ヵ月交替で、利用者と職員が相談しながら、一緒に献立を作っている。自家菜園の野菜や外食を利用したり、調理、盛り付け、片付けなども利用者と共に行い、利用者と職員が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日、時間に拘らず、利用者一人ひとりの希望に添った入浴を、ゆっくり楽しんでもらえるように支援している。入浴剤で季節を楽しみ、温泉や足湯等にも出かけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で、一人ひとりの得意な事や好きな事を見つけたし、その人にあった役割や、楽しみごとが活動できるように、時には家族も交えながら、場面づくりを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、外に出ようと声がけし、積極的に外出を支援している。隣接する法人内事業所に散歩しながらの訪問交流や、日課になっている近くの神社への参拝など地域の人と交流をしながら外出を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	日中は玄関を開放し、ユニット入口にはセンサーを設置している。利用者一人ひとりの行動パターンを職員全員で把握し、見守りながら地域の人との協力も得、事故がなく安全に過せるように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接する法人内事業所と合同で上山消防署、地元消防団の指導、協力を得ながら早朝と地震を想定した避難訓練を年2回実施している。地域住民や、地域支援団体(みずほの会)の協力体制ができており、法人内に備蓄も備えている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士に月2回カロリーチェックをしてもらい、栄養バランスのアドバイスを受けている。毎回の食事摂取量や水分摂取量を記録し、ホールにはポット、急須が常時おかれ、自由に飲むことができるように水分確保を支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には季節の植物が植えてあり、天気の良い日は、設置されたベンチに座り利用者の憩いの場所になっている。ホールには、季節の物や利用者や職員の手づくり作品が掲示され、天窓から差し込む光や照明も調節され、畳スペースにはコタツもあり、利用者がそれぞれの空間で安全に居心地が良く過ごせるように支援している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室、洋室2タイプがあり、使い慣れたものや好みのもを自由に持ち込めるようになっている。温度、湿度、換気をこまめにチェックし、センサーを設置したり、安全面にも配慮し、自宅のように安心してくつろげる空間となるように支援している。		